



橋 戸

令和2年6月1日
学校だより 第3号
練馬区立橋戸小学校
校長 青木 俊哉

“日常”を取り戻す～橋戸小の新しい生活様式に向けて～

校長 青木 俊哉

ようやく学校に子供たちが戻ってきました。新しい生活様式の下、建物の中に響き渡るような声は、大人も子供も出せませんが、校舎の内から外から子供たちの声が聞こえてきて、とてもうれしく思います。

新型コロナウイルスの感染拡大を受け、3月の臨時休業に始まり、休業の延長、再延長、緊急事態宣言、ステイホーム週間…日々刻々と情勢が変わる中、子供たちは、ご家庭でご家族と時間を共有し、生活リズムの維持や家庭学習の課題に取り組んでいたことと思います。保護者の皆様には、忙しい中時間を作り、子供たちの学習支援や様々な取組を支えていただき、ありがとうございます。心より感謝申し上げます。

さて、いよいよ本日より学校の教育活動は再開されます。今日配布した練馬区教育委員会からの手紙にもありますように、今・来週は分散登校として毎日登校します。感染予防を図るために、明日からは各学級を2分割し、その間に子供たちが学校生活に慣れ、学校に通う生活リズムを整えるための取組を進めます。また、臨時休業期間の家庭学習の様子を把握し、フォローに努めます。

まずは“**体**”の状態を戻すために、毎日登校し、規則正しい生活を取り戻します。同時に、様々な不安の解消に向け、“**心**”を整えるよう支えていきます。そして“**頭**”、一人一人の**学びを取り戻す**よう、各学年の児童の実態に合わせて指導・支援にあたります。その後、第3週からは一斉登校になる見込みです。分散登校期間の日程は、次のページにお知らせしていますので、ご覧ください。

今日から再開した学校では「**新しい生活様式**」が求められます。具体的な取組の一つ一つは、とくに目新しいものではありませんが、“**密**”な空間を作らぬよう子供同士の一定の距離をとる、接触の機会をできる限りなくす・減らす、換気や手洗い・消毒を徹底する、当面は同時に登校する人数を減らす…などに取り組むことを通して、子供たち自身が「**自分の体を守るために、“自分にできること” “自分たちでできる(する)こと” “関わる大人にしてもらうこと”を整理し、実践力を高めていく**」必要があります。学校は“**集団での学びの場**”であり、人とのかかわりを通してコミュニケーションの大切さや関係づくりを学んでいくことが学校教育に求められる大きな役割ですから、本来“**密**”になりがちで、接触の機会も多い所です。その学校でどのように取り組んでいくかは、私たち学校関係者に求められる大きな課題と考えています。

『Darkest before Dawn』 三浦大知さんの楽曲名です。直訳すると「**夜明け前が一番暗い**」ですが、一般的には「**明けない夜はない**」と訳されます。臨時休業の期間中、先の見通しがもてず何からどのように取り組むかが難しい時期に、教職員にこの言葉を伝え、ほのかに見える感染の終息や学校の再開に向け、気持ちを奮い立たせました。まさに、今日がその“**夜明け**”の日かもしれません。明日から徐々に明るさが増すことを願い、「**オール橋戸**」で、気持ちも新たに組み込んでいきたいと思っております。

本校としての「**新しい生活様式**」を整え、今日から実践を進めていくことは、来月の教育活動や2学期以降今年の後半の活動につながっていきます。保護者の皆様にも、引き続き家庭での子供たちの様子を支えていただくとともに、学校の取組にご支援ご協力を賜りますよう、お願いいたします。